

合併の意思決定と 住民投票

川井 合併を住民投票で決めるという点については、どのようにお考えですか？

上野 住民投票も、か×か簡単に結果が出てくるとは思いますが、今、どの団体との合併問題を考えるか、合併するとどういう絵が描けるのか、そして、財政的にどうなるのかと、はっきり事前に示せばいいんですけど、それが難しいですね。

川井 そうなんです。しかし、それを市民に示さずには、住民投票は無理だと思えます。

上野 住民投票を実施してしまうと、先の案とはまた別の合併の話題を出すというのが非常に難しくなると思うんです。実際問題として、経済圏・生活圏が広がり、情報通信手段がどんどん進歩してくると、合併問題は、少し考え方が変わってくると思うんです。

行政組織として、コストを安くする、あるいは優秀な人材・専門的な知識を持った職員を集められる、そういう組織にしたいと思えば、合併は必要ですし、市民にとってまちづくりをもう少し広い器で考えたらどうかということも当然出てくると思います。

ですから、一回の住民投票で、合併を蹴って今のままでいくと決



注 「合併特例債」
まちづくり事業に対しての国の融資制度で、平成17年3月までに合併する市町村に対する優遇措置

めてしまっても、それが本当に貫き通すべきものなのか？

住民投票の前提として合併の 具体的モデルの提示が不可欠

川井 今、合併を進めている市町村は、先ほどの地方分権の受け皿的な考えよりも、合併特例債(注)がねらいだとか、地方交付税がカットされたら困るとか、そちらの方の議論が進んでいるような感じがするんです。そういう議論で住民投票をやったら、とんでもないことになると思います。

私は、住民投票を実施するのであれば、きちんとしたモデルを描き、その上でどうですかと問わなければだめだと思っています。

上野 その通りだと思います。

防災対策における 市町村の責任は重大

川井 防災対策は、市町村が真っ先にやらなくてはならないことですね。

上野 そうですね。国は外交・防衛が重点だということと同じように、住民の安全を守るの第一義的には市町村です。

川井 本当にそうですね。私は、国は国民を泥棒と外敵から守れ、市は災害から市民を守るのが第一だと言って、消防団の強化と広域消防の通信司令室の充実を図ってきましたが、問題は市と国との連携です。ことに、市そっちのけで国同士の連携が悪いのが困る。

上野 3年前の有珠山噴火の時などは、自衛隊は自衛隊、警察は警察で動き、国土庁が来て指揮をとっても、初めのうちは指揮系統がスッカリしなかったんです。

川井 あのときは登別自体の被害はなかったんですね。

上野 ありませんでした。今年の8月には台風が来まして、特に北海道・日高の被害が大きかったのですが、河川の管理者と道路の管理者が縦割りです。道路のパトロールと、河川の増水監視の方との連携が悪かったんですね。それで、橋が落ちても道路は止めていなかったということもありました。



川井 そういう点を考えますと、縦割りをどこで止めて広げるかという、やはり市町村しかないということになりますね。

両市の共通の悩み・ 産廃問題について

川井 産廃の問題は、両市の共通の悩みですが、登別ではどうですか？

上野 産廃の許可が国の機関委任事務から都道府県の事務になりましたので、以前よりは、道も本腰を入れてやるんですけれども、まだまだですね。例えば、汚水を垂れ流して、住民から苦情が出てると、我々はすぐ対応するんです

2カ月おきに発生した地震 防災対策の整備について

川井 宮城県では、5月26日に三陸南地震、さらに7月26日には宮城県連続地震が発生して、9月の同じ26日に、十勝沖地震が発生しました。

上野 関東・東海では、地震対策の特別措置法が議員提案でできています。東北や北海道でも頻りに地震が起き、今後さらに大きな地震が発生する可能性もあるのが、国がしっかりとした防災対策や、災害対応ができるよう、特別立法を作るべきだと国会議員の会ができています。この法律ができれば、いろんな取り組みができると思います。

三陸南地震の教訓 通信手段の確保と情報の重要性

川井 5月の地震では、電話が不通になり、大変驚きました。

上野 そうですか。川井 市の防災計画は、電話は当然通じるものという前提のもとで組み上げられているんです。暫定的に携帯型の移動無線機(注)を導入して、7月の地震には間に合っただけですが、通信網の整備ということが、いかに重要かということを感じました。

上野 電話もそうですが、私どもの時は、市役所のある幌別中心部が停電したんです。

川井 停電したらどうしようもないですね。

上野 幸い1時間20分ぐらいで復旧したんですが、その間テレビも見られなくて、情報がかめなかつたんです。

川井 私どもには、震度4になれば、部課長は可及的速やかに本庁舎や近くの関連の施設に出勤し、震度5では全員出勤というようなルールがあるんです。しかし、白石には気象庁で発表する地震計がなく、テレビやラジオに白石の震度が出ないんです。これではだめだと、地震計のない塩竈市、岩沼市、角田市、名取市を誘って知事のところにやって要請をしました。それで、ようやく設置される



昨年7月22日に実施した初動体制・通信訓練

ことになったんです。上野 そうでしたか。やはり電気と通信が確保されないと大変です。川井 登別市と白石市が、緊急時の相互援助協定を結んでいても、電話が通じなければどうにもなりません。上野 北海道の地震では、震源地が陸に近かったために津波が来たと。警報が出て5分位で来てしまっただけに合わなかったんです。

注 「携帯型の移動無線機」

三陸南地震の際、被害状況の把握や関係機関との連絡のための通信手段の確保が課題となった教訓から、市では職員の震度別初動体制を確立し、阪神淡路大震災でも活用実績のある携帯型の移動無線機11台を新たに導入して、市庁舎や各地区公民館などに配備しました。

9月に発生した 産廃物処理法違反事件

川井 白石では、汚泥を肥料にすると、蔵王山麓の畑に埋め込んだ業者がありました。住民から苦情が来たんです。一般産廃物は市、産廃廃棄物は県に責任がありますが、肥料だと言われると県では対応できないんですね。産廃は環境省、肥料は農水省、県も保健所、農林振興事務所と分かれるんです。業者は非常に巧妙なんです。

上野 汚泥を発酵させているのはものすごい悪臭なんですよ。

川井 はい。それで、最後には、警察です。有機汚泥を肥料だと偽って埋めたのを警察が立件したのは全国で初めてなんだそうです。警察が現場検証した後、業者はあつという間に現場に置いていた重機を引き上げ廃業届を出したそうです。トカゲのしっぽ切りです。でも、もう後は来ないだろうと警察署長も話していましたが。

上野 汚泥は、管理型の処分場に入れなければならないんですよ。川井 そうなんです。

上野 私どもの方でも、産廃業者に委託して汚泥処理しているんで

